



健康社会学研究会

ニューズレター No.58

発行：健康社会学研究会

事務局：〒504-8511 岐阜県各務原市那加桐野町5丁目68 東海学院大学健康福祉学部 健康社会学研究室（森川）

TEL：058-389-2200(315) FAX：058-389-2205 E-mail：healpro@tokaigakuin-u.ac.jp

ニューズレターNo.58 / 2010年5月 編集担当：白子 純子

総会出席と委任状提出のお願い

平成22年度総会を来る6月12日(土)第45回健康社会学セミナー終了後に開催いたします。

同封の総会議案書をご持参のうえ、ご出席いただければ幸いです。

ご欠席の方は、お手数をおかけしますが6月4日(金)までに委任状を事務局までFAXまたは郵送いただくようご協力をお願い致します。

健康社会学研究会 代表 松岡正純

第45回健康社会学セミナーのご案内

Win-Winな関係を通じた地域の健康づくり

日時：平成22年6月12日(土) 14時～17時(受付13時30分～)

場所：日本子ども家庭総合研究所3階 第1会議室

会員：無料、非会員：2,000円(非会員の方は事務局までお申込みください)

開会：14時

イントロダクション：14時5分～14時50分

「健康なまちづくりのためのエッセンス」

東洋大学ライフデザイン学部 教授 斉藤恭平

コーヒーブレイク 14時50分～15時

フロアーディスカッション 15時～17時

< 話題提供者 >

三郷市市民生活部健康推進課健康づくり係 係長 守屋希伊子

飯能市福祉部健康づくり推進室 主任 遠藤延人

財団法人日本ウエルネス協会 主席研究員 杉浦裕二

コーディネーター 東洋大学ライフデザイン学部 教授 斉藤恭平

セミナー終了後の予定

平成22年度総会(17時～17時15分)...会員のみ

セミナー懇親会(17時30分～)を広尾駅周辺で行いますので、ぜひご参加ください。

2月 月例会開催報告

場所：日本子ども家庭総合研究所 3階 第1会議室

テーマ：

- ・「概念分析～援助要請行動について」

報告者：臺有桂（横浜市立大学医学部看護学科）

- ・「ISM 法による分析の試み - 地域子育て支援拠点における父親支援調査から - 」

報告者：斉藤進（日本子ども家庭総合研究所母子保健研究部）



今回の月例会は、運営委員でもある臺有桂氏、斉藤進氏2名による報告として、より実践的な研究手法の報告がなされた。

臺有桂氏からは、現象がもたらす概念を言語的に表現し理論化する一つの手法として、具体的な事例を分析し、対象者が援助要請行動を起こすまでのプロセスを分析した実際の研究内容の紹介がなされた。一つの事柄をじっくりと分析し、概念に落とし込む作業は実に緻密で、難しいが、言葉に表され

たそのものを聞くと、「なるほど」と納得できるものがあった。

一方、斉藤進氏からは、実際に行った対面調査で得られたデータをISM法により分析を行った研究手法が紹介された。最終的に導き出された結果が階層化される部分まで詳細に示されるという点では、今までに行われてきたKJ法やKHコーダーといった分析ツールとは一線を画した研究手法の報告であった。

何年か前にも研究会では研究手法の報告会がシリーズ化されたが、様々な研究方法の開発が行われている昨今、研究者として常に新しい研究方法の理解も必要不可欠であると思う。（白子）



当日のPPT原稿は別添の資料（斉藤先生のみ）です。

ISM法による分析の試み

地域子育て支援拠点における
父親支援調査から

健康社会学研究会2010年2月 月例研究会

父親支援研究の概要

- 研究の目的
 - 社会啓発型の促進策から個々の家族、父親への促進策への移行段階
 - すべての親子を対象にしているが、母親を主な対象にする傾向がみられる
 - 地域子育て支援拠点を父親の育児参加促進の最前線として機能させる
- 支援拠点での実態と父親ニーズを把握し、今後のあり方と方策を明確にする

20100227

青森県の子ども支援

2

- 調査研究
 - 平成21年度児童関連サービス調査研究等事業(子ども未来財団)で実施
- 主任研究者
 - 恒吉紀寿(北九州市立大学・准教授)
- 分担研究者
 - 青森 道 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 日本子ども家庭総合研究所主任研究員
 - 新澤拓治 社会福祉法人雲柱社 練馬区立光が丘子ども家庭支援センター所長
 - 坂本純子 特定非営利活動法人新座子育てネットワーク 代表理事

20100227

青森県の子ども支援

3

- 調査の目的
 - 父親の支援拠点利用の実態
 - 父親のニーズの把握
 - 父親グループの組織化の条件
 - 支援拠点における父親支援の位置づけ
 - 求められる支援、効果的な支援、必要な支援の提示

20100227

青森県の子ども支援

4

- 実施した調査
 1. 地域子育て支援拠点の支援者アンケート(支援拠点調査)
 2. 父親グループに関するヒアリング調査(父親グループのヒアリング)
 3. 支援拠点を利用している父親への利用状況と意向調査(父親ヒアリング)
 4. 父親を対象とした父親支援に関する実態と意向調査(父親調査)

20100227

青森県の子ども支援

5

支援拠点を利用している父親への利用状況と意向の調査

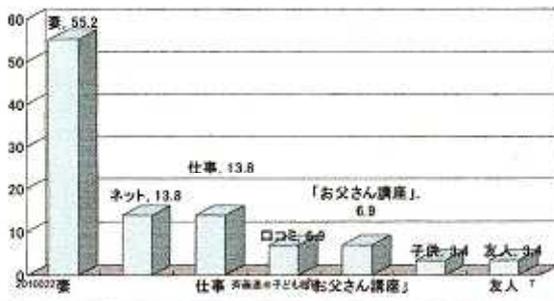
- 父親の支援拠点利用の実態と意向
- 父親で支援拠点利用者
- 半構造化面接
- 7カ所29名
- (以後、父親ヒアリング)

20100227

青森県の子ども支援

6

利用したきっかけは妻(5割強)



20100227

青森県の子ども支援

7

支援拠点を利用しての感想

- 印象(プラス)
 - 子どもが楽しい
 - 妻が生き生きとしている
 - 道具がたくさんある
- 印象(マイナス)
 - 下着売り場にひとりやってきたような
 - 場違いな感じ
 - 女性ばかりの中に
- 継続利用の理由
 - ハイク友が出来た
 - 自分自身が楽しい
 - 妻のすすめ
 - 家庭内での話題
 - 妻が人との交流
 - 子どもが楽しんでいる
 - 子が楽しみにしている
 - 子どもが喜ぶ

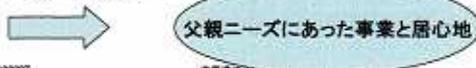
20100227

青森県の子ども支援

8

支援拠点、スタッフへの要望

- 居心地のよい環境づくり
- 父親主体、参加しやすい企画や事業
- 父親だから出来ること
- 父親のニーズにあわせた運営
- 多様なイベント
- 父親への広報



30100227

兵庫県子ども館

9

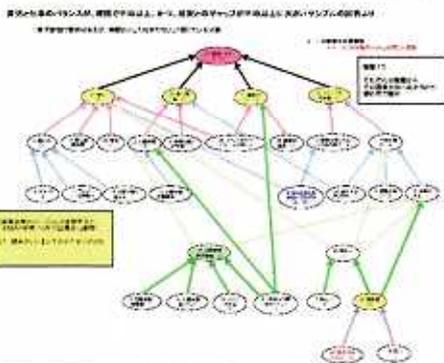
ISM分析

- 支援拠点をはじめて利用した時のプラスとマイナスの印象
- 継続している理由
- スタッフ求めること
- 支援拠点への要望と意見
- 支援拠点の利用に関係する内容を30項目抽出
- ISM法で利用のしやすさ(参加しやすさ)に関する要因の構造化

30100227

兵庫県子ども館

10



201

1

AHP階層分析法とは

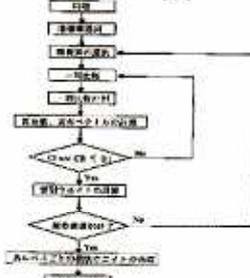
- 1971年 Thomas L. Saaty (ピッツバーグ大学教授)
- Analytic Hierarchy Process 階層分析法
- 不確定な状況や多様な評価基準における意志決定手法
- 主観的判断とシステムアプローチをミックスした問題解決型意志決定手法
- 最終目標……評価基準……代替案

30100227

兵庫県子ども館

12

AHPフロー図



20100227

図 5.1 AHP法の基本プロセス

13

AHP階層構造図



図 5-2 後継者の選択における階層構造

30100227

兵庫県子ども館

14

ISM階層構造化モデルとは

- JW. Warfield によって提唱された
- Interpretive Structural Modeling の頭文字
- 階層構造化手法の1つ
- ブレーンストーミング等により関連要素を抽出
- この要素のペア比較を行い
- 要素iが要素jに影響を与えていれば1
- そうでなければ0として関係行列を作り
- ISMアルゴリズムを用いて階層構造化図を作成

30100227

兵庫県子ども館

15

ISMの特徴

- 多くの人の知恵を集める必要がある参加型のシステム
- ブレーンストーミングで得られた内容を定性的な方法で構造化する
- 視覚的階層構造を示す
- 手法としてアルゴリズム的
- コンピュータの利用

30100227

兵庫県子ども館

16

計算手順1リスト

表 8-1 要素のリスト

番号	要素の内容
1	ドラフトの選択
2	学校(会社)における環境
3	交友関係
4	スター性
5	性格
6	アマ時代の成績
7	将来性

20100227

計算手順1子ども版

17

計算手順2関係行列

表 8-2 関係行列

要素	1	2	3	4	5	6	7
1	0	0	0	0	0	0	0
2	1	0	0	0	0	1	0
3	1	0	0	0	1	0	0
4	1	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0
6	1	0	0	0	0	0	0
7	1	0	0	0	0	0	0

20100227

18

計算手順3可行列達

表 8-3 可達行列

要素	1	2	3	4	5	6	7
1	1	0	0	0	0	0	0
2	1	1	0	0	0	1	0
3	1	0	1	0	1	0	0
4	1	0	0	1	0	0	0
5	1	0	0	0	1	0	0
6	1	0	0	0	0	1	0
7	1	0	0	0	0	0	1

20100227

19

構造化行列

表 8-4 構造化行列

要素	1	4	5	6	7	2	2
1	1	0	0	0	0	0	0
4	1	1	0	0	0	0	0
5	1	0	1	0	0	0	0
6	1	0	0	1	0	0	0
7	1	0	0	0	1	0	0
2	0	0	0	1	0	1	0
2	0	0	1	0	0	0	1

20100227

20

階層構造例1

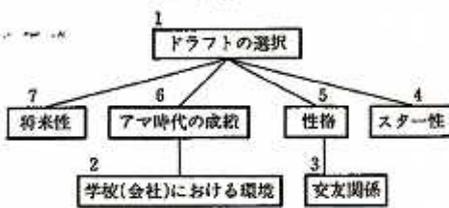


図 8-2 ドラフトの選択に関する階層構造

20100227

計算手順1子ども版

21

階層構造例2

番号	要素の内容
1	建替物件の選定
2	敷地条件
3	立地条件
4	交通の便
5	実物の配
6	物件の内容
7	居住環境
8	日当たり風通し
9	庭の広さ
10	日当たり風通し
11	景観
12	環境
13	用途地域
14	騒音・振動
15	環境

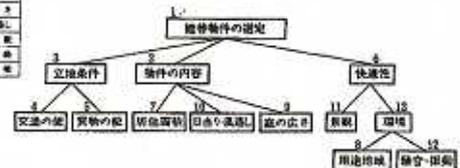


図 8-3 建替物件の選定に関する階層構造

20100227

階層構造例3



図 8-4 職歴移換の意思決定に関する階層構造

20100227

計算手順1子ども版

22

父親支援調査のISM

- フリーアンサーから項目を作成
- 関係行列を作成
- 計算 (1のソフトを使用した)

1. ISM.EXE (DOSモード) 服部 環 (筑波大学・心理学系)
 - <http://www.human.tsukuba.ac.jp/~hattori/ism/ism.html>
2. College Analysis Ver.3.5 (社会システム分析ソフトウェア)
 - <http://www.heisei-u.ac.jp/ba/fuku/analysis.html>

20100227

計算手順1子ども版

24

まとめ

- 人間介在、主観を排除
- 評価基準作成の客観性を高める
- 関係性を構築する
- 自由記述のデータの分析(テキストマイニング)

20100227

齊藤道の子ども総研

25

参考文献

- 木下栄蔵著、8章 階層構造化モデル『わかりやすい意思決定論入門』、2005[1996]、近代科学社
- 竹村哲著、6章ISM法による構造化『問題解決の技法』、3版2003[1999]、海文堂
- 八巻直一・高井英造著、『問題解決のためのAHP入門』、2005、日本評論社

20100227

齊藤道の子ども総研

25

事務局からのお知らせ

平成22年度会費納入のお願い

年を追うごとに、会費納入率が上がっております。ご協力頂きありがとうございます。今年度も同封の払込票、もしくは銀行振込にて平成22年度会費の納入をお願いいたします。

会費納入先

• 郵便振替：00100-8-41025

• 銀行口座：

みずほ銀行広尾支店 普通 1842122

健康社会学研究会 代表 松岡正純

十六銀行日野支店 普通 1238746

健康社会学研究会 代表 松岡正純

ゆうちょ銀行(金融機関コード：9900)

当座 〇一九店(ゼロイチキュー店：店番019)

0041025 ケンコウシャカイガクケンキュウカイ

平成22年度までの会費をこれからご納入の方へ

504-8511

岐阜県各務原市那加桐野町 5-68

東海学院大学健康福祉学部

森川 洋 様

平成22年度会費払込票在中

封筒の宛名ラベルには、「平成 年度払込票在中」と記載されています。

平成22年度の会費をご納入済みの方へ

504-8511

岐阜県各務原市那加桐野町 5-68

東海学院大学健康福祉学部

森川 洋 様

平成22年度会費納入済み

宛名ラベルには、「平成22年度会費納入済み」と記載されています(払込票は同封いたしてありません)。